

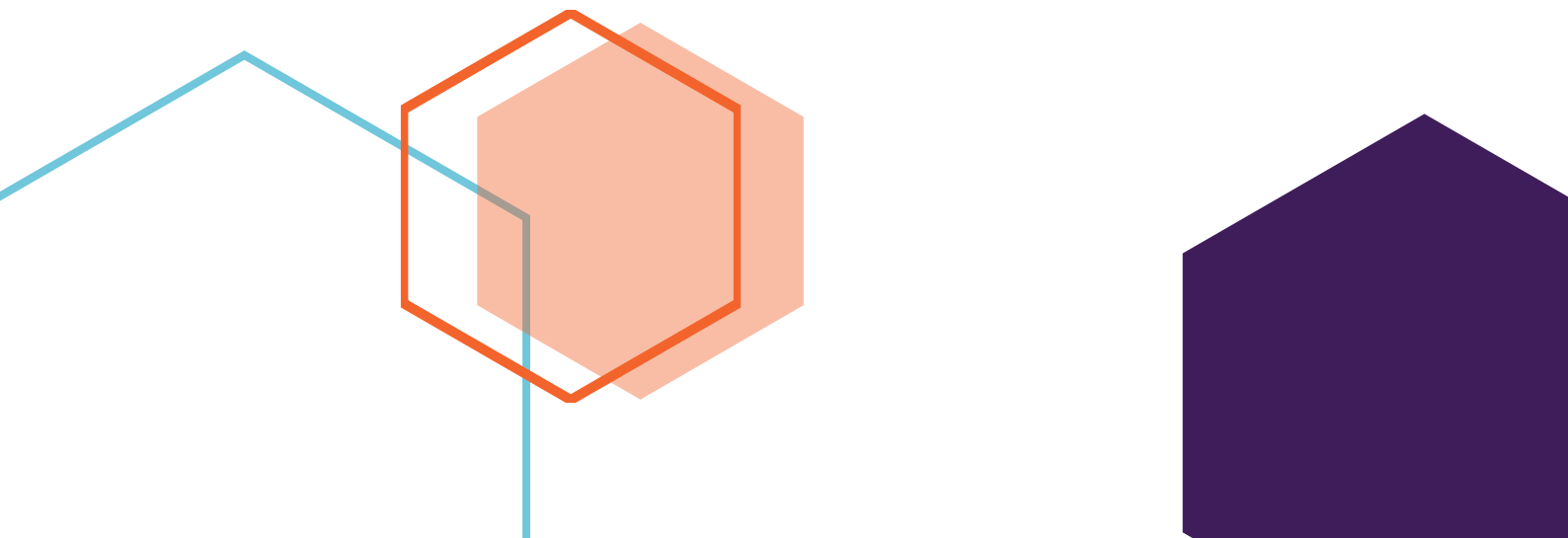


コロナ禍での子育て支援に関する アンケート結果

「新しい生活様式」下での子育て支援のあり方について

特定非営利活動法人 さんぴいす

令和 2 年度ひょうごボランティア基金助成事業「中間支援活動助成

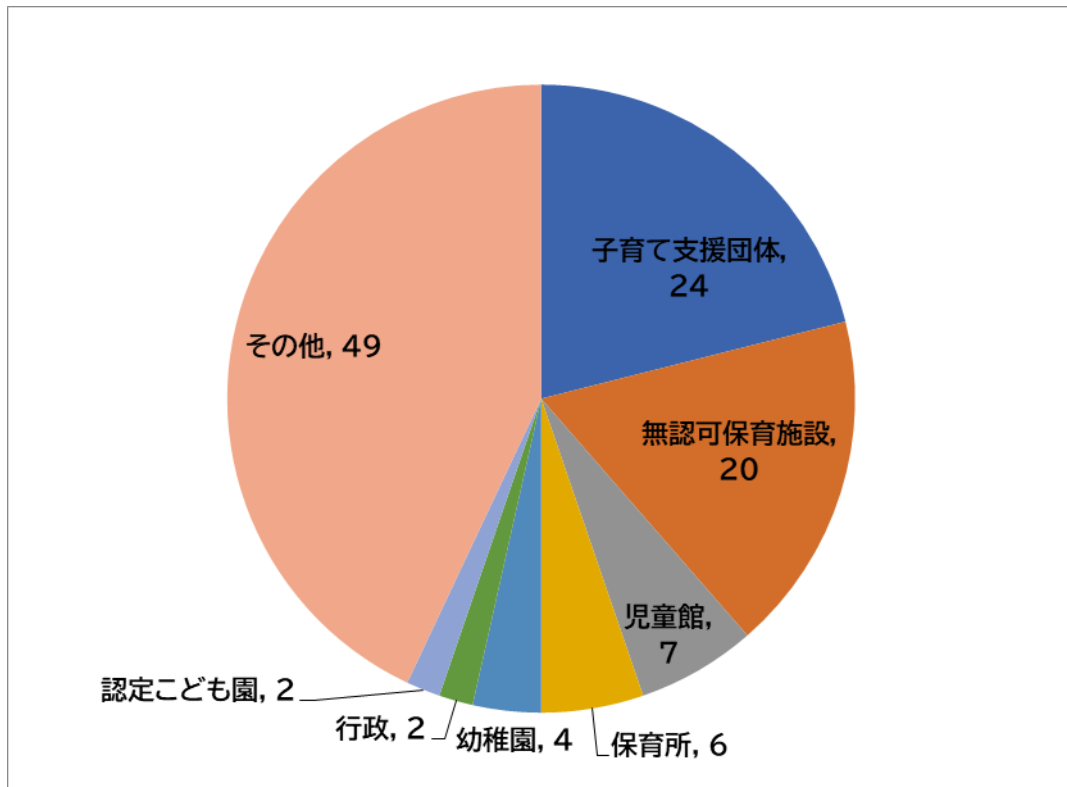


コロナ禍での子育て支援に関するアンケート結果

※ 新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言解除後の子育て支援現場に調査。

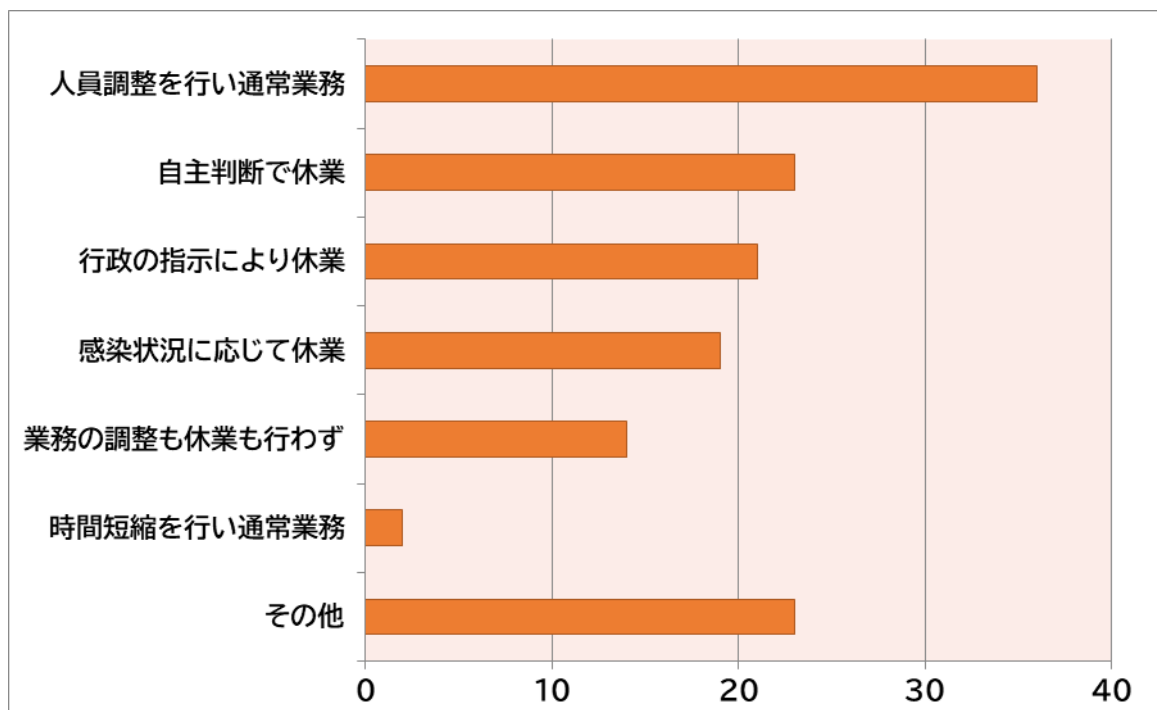
実施時期：令和3年1月 1989件配布・110件回収

Q1 該当する団体区分を教えてください



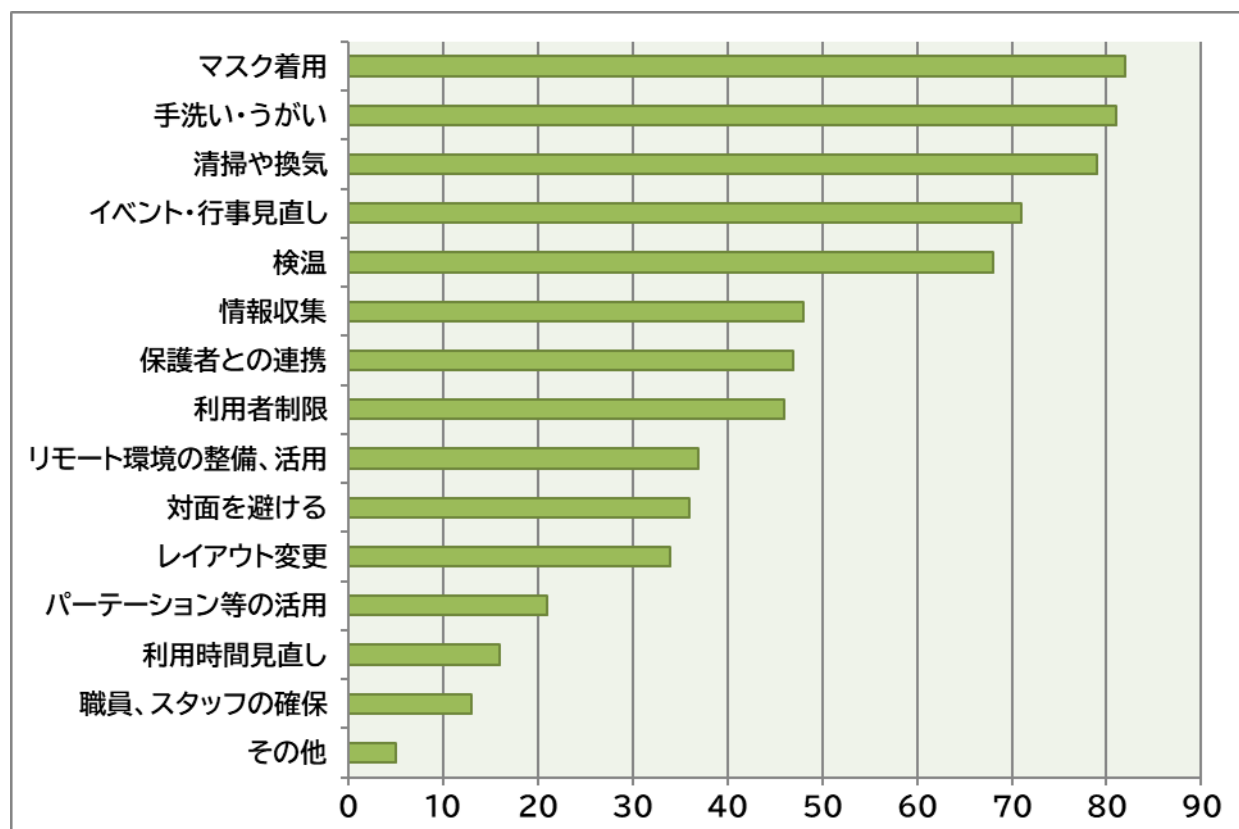
Q2 自粛期間中、どのように事業を継続されていたかお聞かせ下さい

(複数回答可)



Q3 自粛期間中に事業を行っていた方にお聞きします。感染対策として何を行っていましたか？

(複数回答可)



Q4 新型コロナウイルス感染防止のために独自に工夫された事、これを行って良かったと感じた事などあれば是非お聞かせ下さい

除菌、感染防止策

- ・ 食品を渡すときは直接渡さずに床に置く。受取サインは、こちらがする。
- ・ 下足を入れるビニール袋を用意して一人一人個別で入れてもらった。
- ・ 紫外線殺菌庫、スチームクリーナー、次亜塩素酸空気洗浄機の導入
- ・ 使った玩具をその都度消毒し、安心した環境作りを行った。
- ・ 職員の食事を個別にし、外食のルールを設定した。
- ・ クリニックには病院のように設置義務は無いが、院内感染委員会を5年前から立ちあげ、常時院内感染対策を行ってきた
- ・ 通常時から感染防護用具（マスク、ガウン、シールド、キャップなど）を備蓄
- ・ 感染防止マニュアルの改訂、環境整備
- ・ 検温→手洗い→アルコール消毒の「流れ」を作った。給食時に手作りの仕切りを使い、飛沫を防止。
- ・ おもちゃの消毒を殺菌灯に切り替え、対応時間を短縮させた。保護者の入室できるエリアを限定させ、滞在時間を短縮させた。
- ・ 手洗い後全てペーパータオルに切替え、手指の消毒を行った。
- ・ 用品、用具をなるべく個人使用とし、使い回さないようにした。
- ・ (乳児の感染に伴うリスクが不明であったころ) 0歳児のみ別棟で完全隔離を行った。

オンラインの活用

- ・インターネットでのグループウェアを使いネットミーティングやファイルの共有などをおこなった
- ・オンライン環境の整備を行った。
- ・オンラインミーティング、YouTube 配信、SNS 等での保護者との連携を

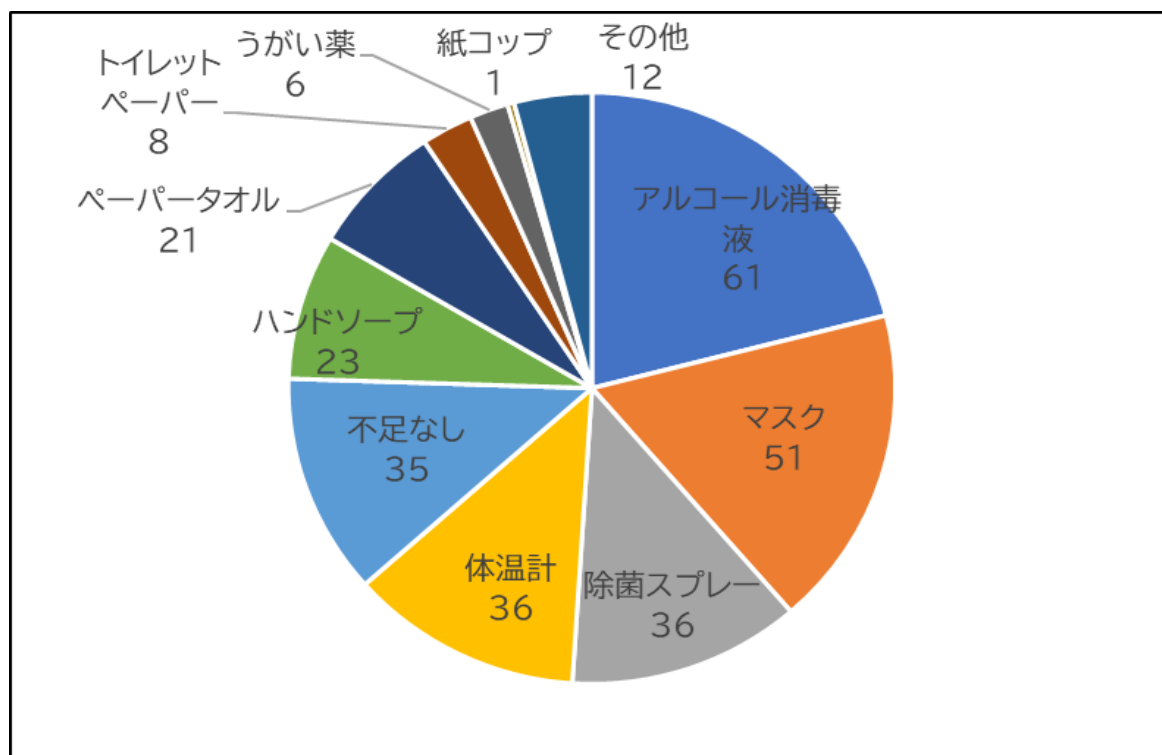
イベント・行事

- ・鑑賞例会・自主活動（おやこまつりやディキャンプ）を中止・延期にし、人形劇団や児童劇団から配信されるものを通信で会員に知らせた。
- ・入場制限を設け、間隔を取りながらの人形劇開催であったが、コロナ禍で不安を抱える親子にとって一緒に観劇できることに安心感を持ってもらえた。
- ・行事に代わり、週1回の「手作り赤飯」支援を行った。
- ・窓にメッセージや物語の一場面を貼るなどを行った。
- ・屋外での実施や「密」の程度を考え、再開する内容を個別に判断した。市や地域の感染状況に対応して各段階を設けて実施する内容を事前に考え用意しておいた。
- ・施設内の体育館を活用し「密」を避けた。またフルフープを使って、親子の位置を決め、楽しみながら間隔を取ってもらった。
- ・施設内で出来る事を児童と職員で企画した。

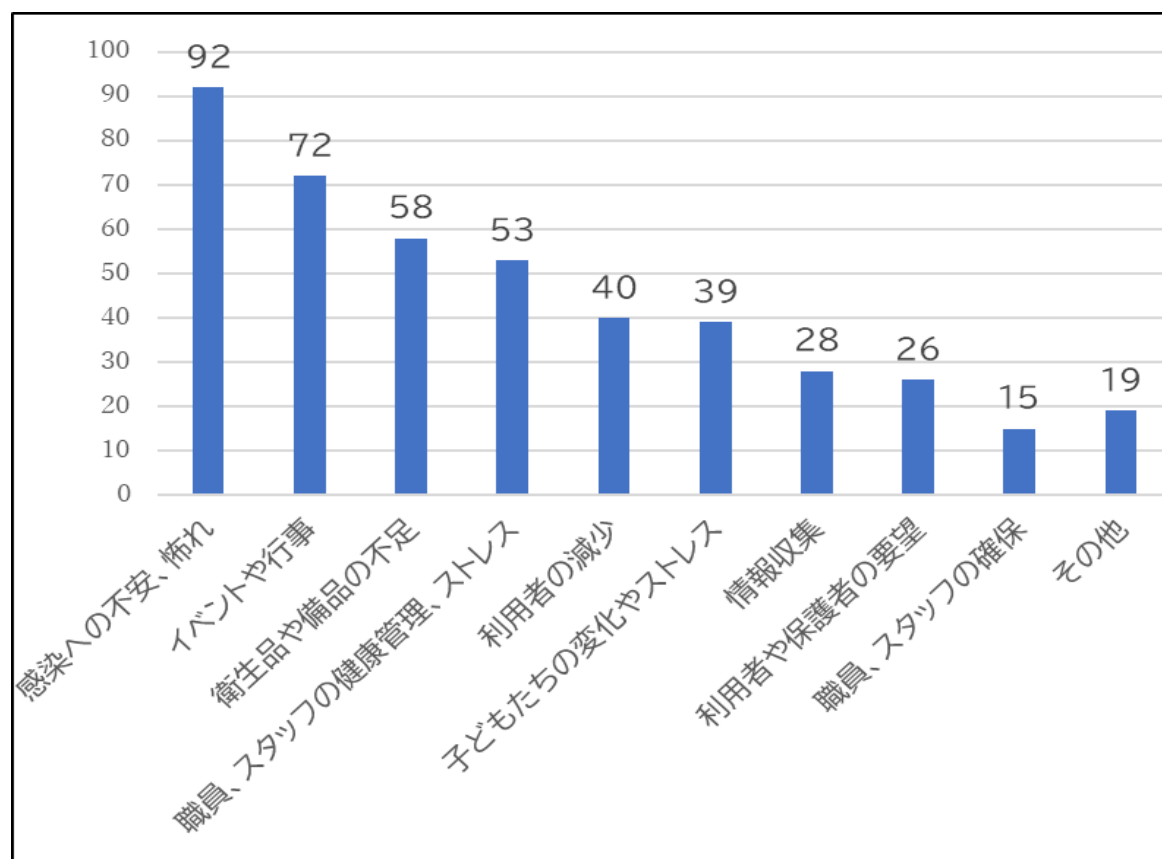
その他

- ・医療従事者など、家庭での保育が不可能な方のみお預かりした結果、必然的に少人数になり、ゆったりと保育ができました。
- ・僅かな身体の変調であっても職員の出社を制限。また職員・家族・同居人すべての健康状態を把握。
- ・園は職員・利用者の動き（移動）を把握し、必要に応じ2週間程度の自粛を要請。
- ・個別ニーズに合わせた新規の取り組みを行った。
- ・子供達の不安の軽減に努めた。コロナは怖くないということを説明。
- ・学校の休校に伴い、サービス提供の中止を行った。
- ・感染防止のために考えられる事を全て行い、必要以上に不安にならないように努めた。不安な事を聞き取りし、利用者には園の方針を理解していただいた。それでも不安な場合は自由に休園していただいた。
- ・基本的な防止策を、スタッフ・保護者の理解を得た上で継続。行動を起こす場合は、事前に説明を行う
- ・グループワークは中止していたが、支援員が個別でお母さんと話す機会を多く持つ事を心掛けた。
- ・児童の受け入れを予約制にして人数調整を行った。また、希望保育を行うことによって、「密」を避けられた。
- ・検温と症状のチェックシートの記入を行い、自家用車通勤、時差出勤等、出勤方法の変更を行った。
- ・自由開放の時間を区切り、間に消毒と換気の時間を入れる事をホームページで周知。
児童の受け入れを予約制とし人数調整を行った。
- ・自粛休園している園児には期間を決め、連絡を取るようにした。
- ・休業中も相談受付や緊急時の対応が可能であることをホームページ等でお知らせし、対応できる体制を整えていた。

Q 5 自粛期間中、衛生用品や備品等の不足はありましたか？ (複数回答可)



Q6 新型コロナウイルス感染拡大を受け、その対応や対策で大変に思われた事、困った事は何ですか？ (複数回答可)



Q6 で、その他にチェックを入れた方は、その他の内容をご記入下さい

- ・ コロナ対応の中での、利用者への周知方法。
- ・ 母親のストレス
- ・ 委託事業等では行政との協議がたびたび必要となったこと。行政との連携・温度差
- ・ 歓送迎会等まともにできなかった。
- ・ 歯科の救急をおこなっています。また障がいのある子どもたちの全身麻酔下の歯科治療を行っています。
今回、保育所が次々閉鎖されていったため、女性歯科医師をはじめ、看護師、歯科衛生士が出勤できない事態が発生した。このため救急車の受入れを一時止めなくてはならなくなった。
そこで医院の休憩室で一時預かりするなどの臨時対応を行った。
- ・ 備品調達、資金の調達
- ・ 外泊先でのコロナ感染対応
- ・ 対面下の保育が制限されることへの難しさ
- ・ 活動内容を変える必要性
- ・ 普段から健康、食生活を気遣うようにしていた。
- ・ 消毒作業がとても大変
- ・ 感染予防対策の明確な基準がなかったため、独自で判断するしかない部分があった。

Q7 Q6 でチェックをつけた項目がいつ頃改善されましたか

多くのものが8月でもまだ改善されていなかった

- ・ 最初に改善されたのは衛生用品の不足、続いて情報収集が改善された。
そして、中止していたイベント等が徐々に再開され始めた。

Q8 今なお困っていたり、気掛かりに思われるものがあればお聞かせ下さい

感染への不安

- ・ 濃厚接触者の基準などゆるやかなので、気になる。
- ・ 感染の恐れ、感染者が出た時の園の運営と職員の確保。
- ・ 先が見えない。
- ・ 収束の時期や今後の見通しが難しい。
- ・ 家族に高齢者のいる家庭、介護施設勤務のスタッフには、活動を頼めない。
- ・ 家庭内感染で子どもに影響がないか、また変異種感染が気になる。
- ・ 会員は高齢者が多く、感染リスクが高い。
- ・ 事業所内でのクラスター感染。
- ・ 3歳児以下のお子様の対応をどうすれば良いかいつも悩んでいます。
- ・ 子ども同士の接触や保育士との接触は避けられないので、感染の心配は尽きない。
- ・ 子どもが熱を出し、早退した時の翌日の登園。また咳や鼻水が多く出ている子どもの受け入れに戸惑う。
室内の換気と湿度が気になり、加湿器を2台置くが、湿度が低い。
市内の認可園6園でコロナが発生しているが、どの園か地域も知らされていないので不安に感じる。
- ・ 小学生以下の子ども達が自由に遊べる「親子遊戯室」の利用希望が多いが、乳幼児も対象となるため、感染症対策、特に消毒の方法に苦慮している。
- ・ 乳児院として保護者との面会、外出、外泊の必要性和実施による感染リスク。
- ・ 緊急一時保護等で預かる児童の家庭での様子が不明なため、感染が不安。
- ・ 自分たちが行っている感染対策が本当に効果があるのか気になる。

運営

- ・今後の子育て支援の在り方をどうすればよいか。
- ・コロナ感染状況によってはなかなか外出が難しいので、活動が続けられるのか心配なところ。
- ・感染予防のためリアル集まりを持っていないので、お母さんたちのニーズに答えられているのかどうか気がかり。
- ・遊戯室は時間制限、人数制限で対応の他、おもちゃや道具などは昼と夕方2回の消毒をしており、その消毒に人手が取られ、この作業をいつまで続けるのかが今一番の気がかりなことである。
- ・感染への恐れや出口のないトンネルへの不安が、職員のモチベーションに影響するのは必至で、その点運営側としても不安です。
- ・対面で安心して相談をしたり、話すことに不安があり、活動が思うようにできなくて困っています
- ・利用者の減少、運営費のひっ迫、スタッフのモチベーション、感染に対する恐怖
- ・感染への不安からの休会者がいる
- ・年間でも多くの売上げを見込んでいる夏のプログラムの縮小により、かなり売上減であること。
- ・様々な世代の人たちとの交流を通して、地域の中でのつながりを大切に事業を行ってきたので大変難しい状況におかれている。アウトリーチ支援をどのようにしていくのがよいのか模索中である。
- ・感染への不安から家にこもり、子育てに不安を抱えている方へのアプローチの仕方を模索中。また支援をしたいが、集客しすぎると安全が損なわれるというジレンマもある。
- ・オンラインだけでは支援が行き届かないこと

イベントや行事

- ・イベント準備しても、感染状況により中止することになる。中止の判断が難しい。
- ・イベントの開催については、対策を万全にしても常に気がかり。
- ・積極的な活動をすることが拒まれる。
- ・食事を伴うイベントの実施の可否。
- ・今後のイベント等が計画通りにできるか
- ・職員の計画案力養成に反映させるために、実施不可でも先ず計画は立案する。
- ・活動内容の再考
- ・オンラインひろばを実施した際に対象年齢が低いひろばでの需要があるのかどうか気になっている。また開室していても利用人数に制限があり、希望者全員が利用できない不便をおかけしていること。そして、突然の閉室が続いていることが気掛かり。
- ・施設行事は工夫して子ども達と職員のみで行い、家族が学校関係者、地域の方の招待を無くしたため、退所児のホームカミングデーが出来なかった。
- ・コロナ前から仕事復帰等で利用者が減少していたところにこの自粛だったためなかなか人が集まらなくなった。
- ・行事等どのくらいの規模でなら行えるか基準が分かりにくく、今も役場の担当課とその都度検討しながら進めている。入館の人数制限が出来ていても子どものソーシャルディスタンスは取りにくい

ストレス

- ・母親のストレスは相当なものです。それにより、子どもにもかなりのストレスがかかります。園が休みになったら、休みになるのではという不安、父親の在宅勤務などで日々のルーティンが変化してしまったことが大きく影響しています。
- ・外国人講師との認識の違い。いつ誰が感染してもおかしくない、またクラスターに発展してもおかしくない状況は非常にストレスになっている。保護者も生活や仕事環境が変わることで精一杯になっており、その影響が出ている園児もいる。非常に危ういバランスで何とか保たれているといった現状である。
- ・目に見えないウイルスに対し、消毒など出来る対策を講じてはいるが、常に不安を抱きながら子どもと日々を過ごしており、精神的に苦しい。
- ・利用者の家庭でのストレスと保護者のストレスが気掛かり。

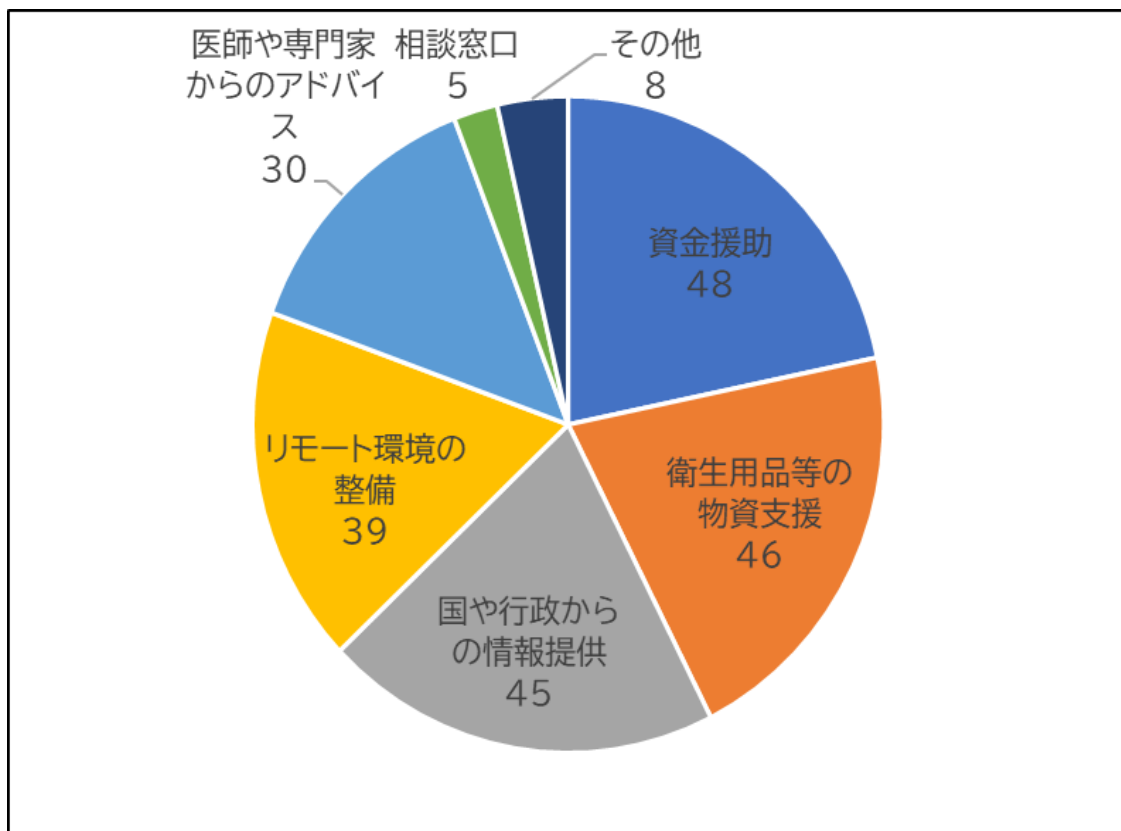
子どもの成長

- ・外国人児童・生徒への宿題教室を開いていますが、子ども達の学力低下と意欲の低下が気になります。
- ・常にマスクを着用しているので、子どもが表情を読み取れているか心配。
- ・子育て支援で最も大切にしているスキンシップを活動の中に取り入れることが出来ないため子どもの心の発達に大きな不安を感じる

その他

- ・ワクチン接種が選択制ではなく、義務になること
- ・子ども会の保護者もパートタイマーで働いていて、行事支援も要因不足になっている。
自治会であれ、子ども会であれ、団体の取り組む姿勢は一貫性なし。トップはコロナより自己主張が第一。
- ・利用者（子育て中の母親）が感染の不安から、閉じこもりがちになり、上手に息抜きや外出して情報収集が出来ていない傾向にある。再び全国的な休校があった場合の子どものストレスや虐待の可能性のある家庭へのフォローが気になる。
- ・利用者（特に高齢者）への配慮。特に児童館との入口を分離するときの導線の設計に悩んだ。
高齢者は若者との接触に神経を使った。
- ・自粛期間中は出産を抑える母親や里帰り出産が出来なくなった母親の不安を電話等で聞くことが多かった。
解除後は、期間中にうつになり失職し閉じこもり気味になった夫の事を相談する母が多くなった。
現在も続いている。
- ・人数の制限や事前予約制にしたために、以前は思い立ったらふらっと来ていただけていたが、少し敷居が高くなり気軽さがなくなってしまった。それに伴ってママ友づくりの場や機会が減少していることから、子育ての大変さを一人で抱え込んでいる母親は少なくないのではと感じる。
- ・流行以前から日常使用していたペーパータオルの入荷が無い。
- ・保護者の不安が増えている。また「うわさ」に対する保護者の不安と問い合わせ対応が少なからずある。
- ・コロナの情報が色々ありすぎるので自分たちの対応がこれでよいのかとふと思う。
専門家に相談できる機会があればと思っている。
- ・控えているプログラムが多く、「対策を取って事業の実施を」と通達はあるものの、もしものリスクへの恐怖が大きすぎ、安易に「しない」という選拓をする風潮になっているのではないかと気掛かりに思っている。
- ・コロナが収束せず、また衛生用品の不足が懸念される。
- ・感染拡大に対する対策。

Q9：今後、どのような支援を望まれますか？



Q10：新型コロナウイルス感染予防として、政府は「新たな生活様式」を推奨しています。しかし子育てにおいてスキンシップなど密な接触を避けられない場面も多くあります。このような環境下で子どもたちとどのように接してきたか、また今後どのようにしていくのが良いと思われるかお考えをお聞かせ下さい（記述式）

● 子どもたちとどのように接してきましたか？

※感染への不安を大いに感じつつも、スキンシップのある今まで通りの保育を行う現場の苦労が伺えます。子どもに触れる前に、手指の消毒を徹底させ、保護者への事前説明や理解を求める行動も伴い、通常通りの保育のために、通常以上の働きかけが必要とされた状況であった。以下は、現場の声である。

- ・子どもに直接触れないようにした。
- ・出来る感染症対策を全て行ったうえで、これまで通りのスキンシップを心掛けた。
ただ、手と手を合わせるなどの行為は控えた。
- ・見守りをして必要以上に接近しない、触れないようにした。
- ・過度なスキンシップはしないように心掛けていた。
- ・消毒や換気、体調管理等で出来る限りの感染症対策を行いながら、子どもたちのふれあいにはできる限り制限をかけないように努めた。
- ・子どもたちに不安を与えないように、今まで通りのスキンシップを行っていた。
- ・職員側がマスクや手洗いを徹底し日常から感染リスクを徹底的に下げ、（スキンシップのある）通常に近い保育をおこなってきた。
- ・手指消毒、環境消毒は徹底しつつ、子どもたちとの距離は変わらず抱っこしたり手をつないだりしていた。
- ・保育者の健康管理の徹底を行い、マスクは着用せずに、普段通りの保育を行った
- ・子ども同士のスキンシップは密にならぬよう、お散歩カートを分けるなどの対応
- ・スキンシップなどは極力避けた。→その結果、参加人数が減少
- ・子どもたちを不安にさせないため、いつもと変わらない態度で接し、その代わり換気や消毒を徹底し、感染防止に努めた。
- ・スタッフは出来るだけ接触を避け、よほどの危険が無い限り、直接子どもに触れないようにしてきた。
- ・子供たちから寄ってくるのでスタッフが距離を取るようになっていたが、うまく行かなかった。
- ・スキンシップは避けられないため、子どもに触れる前には手洗い、消毒を行った。
- ・子ども達が気を使わないよう、スキンシップを避けることはしなかった。
- ・可能な場面では距離をしっかりと取り、距離を取れない場合はマスク着用で接した。
- ・職員は不織布マスクを常に付け、頻繁に手洗い、消毒を行い、子どもに触れる時は特に気を遣った。
- ・幼い子どもへのスキンシップはやめることも出来ず、食事も生活を共にした。
- ・消毒など全てきちんと行っていることを伝えと共に、子どもが抱っこ、タッチ、手をつなぐなどのスキンシップを求めてきた時に応じて良いかを事前に確認していた。
- ・保護者には、あらかじめ利用規約に「危険な場面では子どもとの距離が近くなる場合がある」ことを明記し、同意してもらった
- ・感染予防をしっかり行った上で、スキンシップは必要なため行ってきた。
- ・最大限の予防対策をした上で、通常通りの支援を実施。
- ・スキンシップが不可欠な場合は、保護者に確認を取り、必ず手指消毒をして行うようにしてきた。
- ・支援の必要な児童に対して密は避けられない。ただ、これまでのようにスキンシップはできるだけ避け、必要と感じた時は保護者の了解と消毒をして対応した。また保護者が不安にならないように、感染予防の現状を伝え、理解して利用してもらった。
- ・児童館では距離を取って接するよう心掛けてはいるが、親子の方から向かって来られる場合は無理に離れることなく接していた。

● **今後どのようにしていくのが良いと思われますか？**

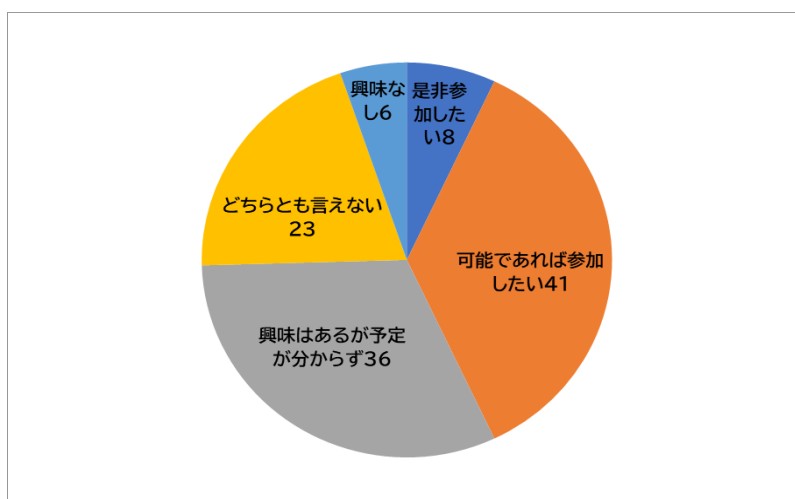
※子どもの成長において「新たな生活様式」よりもスキンシップなどもっと大切にすべきものがあると考え、現場が大多数を占める。職員やスタッフ、そして保護者など子どもの成長を見守る大人が感染対策、感染予防に努め、保育の質の低下を防ぐ働きかけがより必要であると思われる。以下は、現場の声である。

- ・子どもというより支援者である大人が手洗い、消毒などの感染予防に努め、スキンシップなどは過度なディスタンスを取らず今まで通りに接したいと思っています。
- ・今後も、触れないようにする。
- ・今後はわからない。
- ・手をかけていかなければいけない年齢には「新たな生活様式」よりも、関わる大人が感染対策をしっかり行い、スキンシップや密な接触をしても大丈夫なようにすればいいと思う。
- ・一時預かり事業では濃厚接触を避けられない。保育者のPCR検査に公的支援が必要
- ・むずかしい。距離をとる、感染に気をつけるくらいしかないと思う。
- ・当園は小規模の0～2歳の低年齢児な為接触を避けるのは困難です。園内の環境を変えるというよりは職員や保護者一人一人の意識の維持、園内の消毒・換気、また普段の休日等の過ごし方を徹底してもらうことが良いと思う。
- ・スキンシップが取れなくても、メッセージを発信し続ける
- ・小さな子どもには変化なく接するしかありません。その分、大人が日々気をつけ、持ち込まないよう最善の努力を続けること。
- ・手洗い、うがいの徹底、健康状態の把握ができておればスキンシップは問題ないと思われる。ただマスクの着用は行ってきたい
- ・スキンシップは子どもの栄養素であるので、予防対策をしっかりとすることで実施することが重要
- ・職員の危機意識の徹底
- ・抱きしめられるのは、子供達にとって最重要です。子供たちの成長に不可欠なものは、現状通りしていきたい。
- ・リスクを考え排除していくことは簡単だが、子ども達の育ちに大切なことを守るために何ができるのかという視点を忘れず対応していくことが大切だと考えている。
- ・保育の質の維持向上や、子どもの最善の利益を守ること、日々の保育課程を現場で遂行していくこと。
- ・子どもに不安を与えないよう、これからも同じようにスキンシップを行っていく。
- ・子どもとのスキンシップは重要なため、へらさなくてよいと考える
- ・大人が感染対策をした上で、子どもとの関わりは引き算しない。感染症対策を理由に子どもに不利益を被らせない。
- ・距離をとりながらアイコンタクトや声かけによって子どもとの意思疎通をはかるようにしていく
- ・感染対策はしっかりおこなった上で、子どもたちにはできるだけ普段と変わらない接し方をしていきたいと思っています。
- ・コロナに対して正しく恐れる必要性と積極的・前向きな姿勢がもてるような働きかけが必要。
- ・今まで通りの対応を考えていますが、中高生等に対しては、できるだけ自粛の方法で話し合いながら検討していきたいと思っています
- ・スキンシップなどは子どもにとって必要な関わりなので変えない。子どもたちが自身で手洗い、うがいなどの感染予防についての習慣を身につけるような保育を続ける。
- ・密接に接触してしまうことは避けられない。手洗いや手指消毒・マスクの着用など、身近にできることを実践していくことが大切だと思う。
- ・コロナの感染を過度に恐れるのではなく、日頃の手洗い・手指消毒・マスクの着用などできる範囲で対策していければと思う。
- ・コロナ禍であっても（もしくはこういう状況だからこそ）身体全体を使った愛情表現は必要だと思う。職員それぞれが今できる最大限のかかわりを続けるしかないのではと思っている。
- ・幼児期におけるスキンシップは必要不可欠だと考えられ、検温と消毒を徹底させる。
- ・スキンシップは大切であり、しっかりと感染対策を取り実践していくしかないと思う。新しい生活様式の徹底につきて思う。
- ・感染しないように策を施す前提だが、手洗い、健康管理をし、室内環境を十分に整えることが必要。
- ・ソーシャルディスタンスやマスク等の感染対策を行いながら、子どもたちと関わりを持つのが最適解だと考える。
- ・環境も含めて、手洗いや消毒を徹底することと密にならないようなプログラム作りを考える
- ・保護者向けに定期的に子ども達の様子を伝えて行く事が大切だと感じる。
- ・保護者、職員、子どもそしてその家族も含め、まずは体調管理の徹底です。そうすることで必要以上にコロナを恐れず、子ども達と過ごすことが出来ると思います。
- ・職員の健康管理の徹底、予防対策を行い保護者に丁寧に声掛けしながら子どもに関わっていくしかないと思う。

● 現場での課題や意見

- ・子どもたちに、お友だちと離れるようにという方が大変難しいことですし、精神的にも不安定になってしまう
- ・「スキンシップ」のみを取り上げて何かを意見できるものでもなく。
- ・密を避けることと、保育の質に優先順位をつけられません。
- ・密集、密着なしでの保育はあり得ず、また、子どもに求めることができる予防策はうがいや手洗い、手指消毒など限られています。ですので健康で感染をしていない状態を作り出すしかできないと思っています。
- ・リモートを推進され準備もしていますが、利用者さんたちからは会えることの必要性を求められ、ものすごくギャップを感じている。
- ・大人がマスクをしたままの姿で育つ子どもの情緒面の発達が気になっています。
- ・コミュニケーションをとるのは、スキンシップは重要。
- ・普段なら腰に手をまわして接触する子供が、コロナ禍のあとは接触してこない。このようなことから、子供たちへの伝染病の正確な情報を伝えること。
- ・保育は0歳から2歳児、密を避けられません。子育て支援のかたちを模索中です。
- ・試行錯誤を続けています
- ・子ども達は新しい生活様式に日に日に慣れていくことが出来たが、遊びの場面で子ども同士くっつき合う場面もあるので、それは仕方がないことなのかと悩んだりした。
- ・こども同士に「3密厳禁」は出来ませんと保護者に伝えてきましたが、行政機関の後押し（広報活動）が必要と感じました。

Q11：ご回答いただいたアンケート結果のご報告とアフターコロナの新たな子育て支援様式を考えるフォーラムの開催を予定しております。ご興味はありますか？



Q12：フォーラムを開催する場合、どちらの方が参加しやすいですか

